

# 第1章 景観の現状特性







## 1.2 歴史・文化・景観を活かしたまちづくり

本町は、古く旧石器・縄文時代から、和田峠の黒耀石石器文化圏の中心として、また、鎌倉時代の諏訪神社の大祝、金刺盛澄・手塚太郎光盛兄弟の木曾義仲や鎌倉幕府に仕えての活躍、鎌倉五山建長寺住職による慈雲寺の開山、御射山祭での全国武将の参集による信濃の政治・文化的な中心としての発展等、多彩な歴史を有しています。

江戸時代には、中山道、甲州道中が合流する交通の要衝として、中山道随一の温泉宿場町として、また全国に一万余の分社を持つ諏訪神社の総本社としても栄え、特に御柱祭に代表される大社信仰は、諏訪地域の人々の精神に浸透し、今日においても、コミュニティの紐帯としての役割を担っています。

明治以降は、鉄道敷設と交通流動の変化に伴う宿場の衰退、製糸業の成長と精密機械工業への産業の中心の転換、昭和の高度経済成長を通じての商工業・住宅等の都市的土地利用の進展とその後の低成長安定化へと変遷してきました。

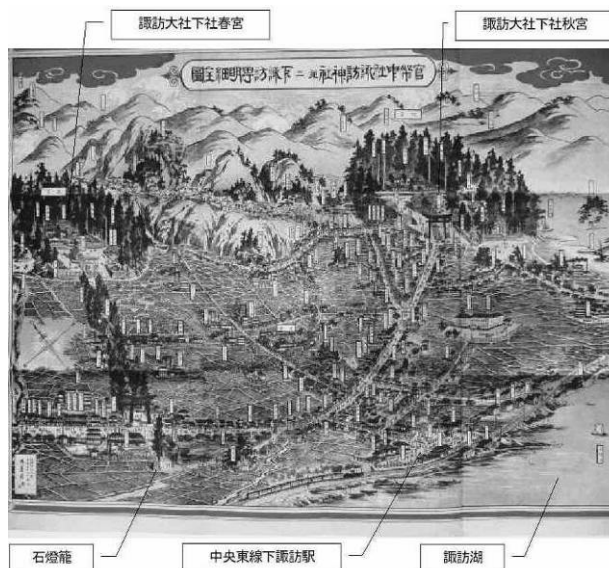
このような変遷を通じて、都市の発展が見られましたが、一方で下諏訪町らしい個性ある景観が失われてきたことも事実です。このため、「下諏訪町らしい歴史と文化を活かしたまちづくり」をまちづくりの基本として、今日、様々な取り組みが進められています。

町の骨格的な景観構造と歴史的経緯を背景とした低層の町屋群や数多く点在する歴史的建築物の保全と尊重、歴史と文化に関わる住民活動、「観光振興条例・助成制度」による町並み形成、「湯の里浪漫整備事業」や「街かど博物館」、「下諏訪町都市計画マスタープラン」における歴史と文化や景観まちづくりの重視、「街なみ環境整備事業」の推進等、時代に応じた様々な形での「歴史・文化・景観を活かしたまちづくり」により、本町の景観に活気と彩りを添えていくことが大きく期待されています。

明治17年頃の下諏訪宿



諏訪神社御柱記念下諏訪町明細全圖 明治41年5月



低層の歴史的・伝統的建築物群

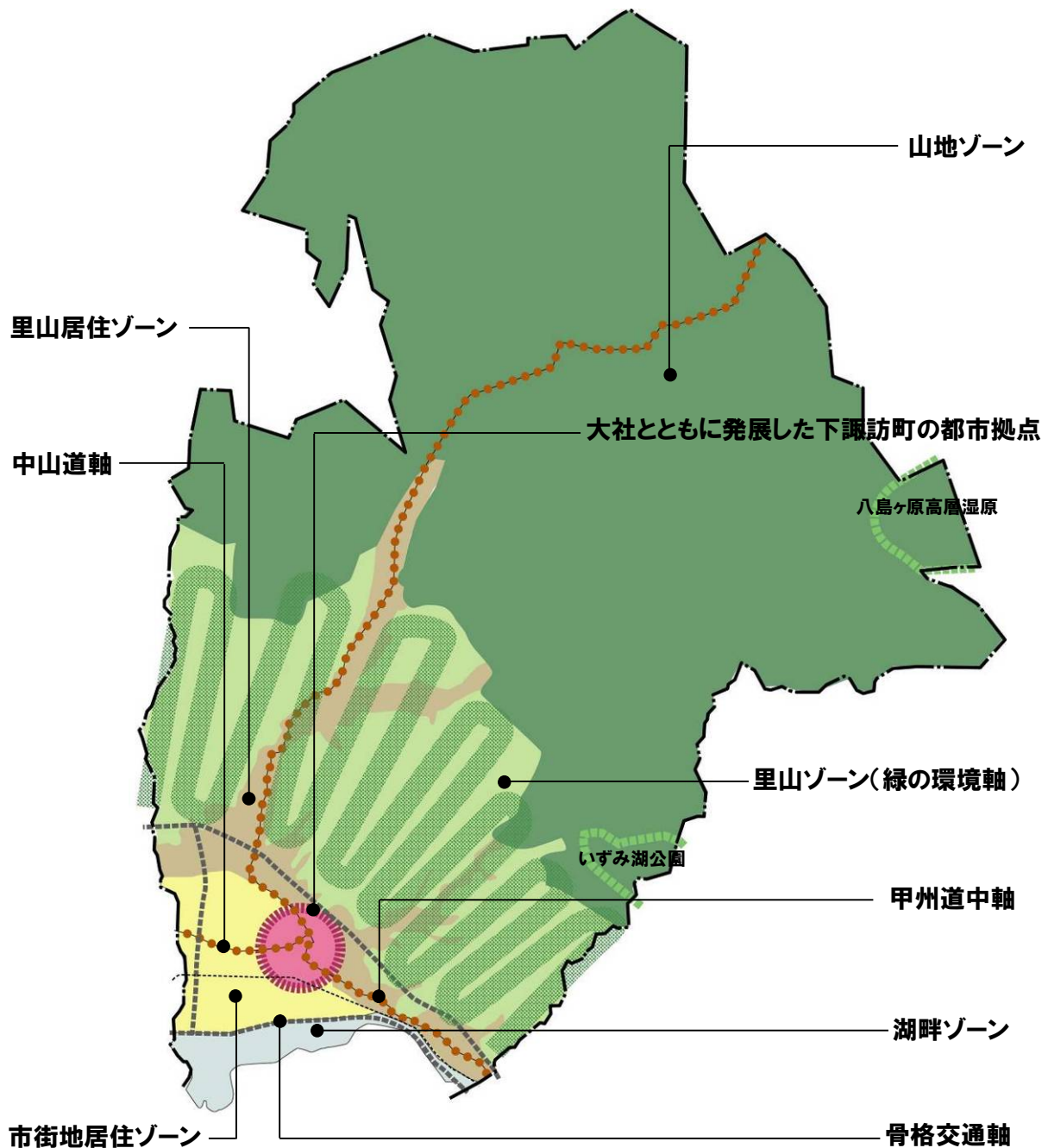


## 2 景観構造と特徴

### 2.1 全町域の景観構造

本町の景観を把握するにあたり、地形区分や都市の活動実態などの諸要素から、骨格的な景観構造を次のように捉えます。

- 拠点：大社とともに発展した下諏訪町の都市拠点
- ゾーン：山地ゾーン、里山ゾーン、里山居住ゾーン、市街地居住ゾーン、湖畔ゾーン
- 軸：中山道・甲州道中軸、骨格交通軸、緑の環境軸



## 2.2 景観構造別の特徴

### (1) 大社とともに発展した下諏訪町の都市拠点

大社を中心に街道宿、温泉地として発展した市街地です。

住宅、商業施設、公共施設、歴史的建築物などの多種多様な用途がコンパクトに集積する町内でも最も密度の高い地区です。

下諏訪町の中心として、住む人にも訪れる人にも豊かで個性あふれる印象を与えることができるように、「歴史・文化」と「町並み」が調和した景観形成が必要です。



### (2) 里山居住ゾーン

背後に里山の良好な眺望を有する住宅地です。河川沿いの水と緑の住宅地として、眺望に配慮した景観形成とともに、緑の保全や創出が望まれる地域です。



### (3) 市街地居住ゾーン

湖畔の扇状地・平地に広がる市街地であり、旧来からの市街地と新市街地に大きく分類されます。

地区の特性や密度に応じて、暮らしやすい居住地としての生活空間や町並みを形成し、緑化の推進、周辺の水・緑との景観調和や眺望地点における湖や富士山への見通しの配慮も必要です。



### (4) 湖畔ゾーン

町の南の約3.5kmの湖岸延長を持つゾーンです。近年、豊かな生態系の再生を目指して人工なぎさの整備が進んでいます。

背後の市街地と一体となって多様な余暇活動の場、湖岸居住の場として、一層の整備充実が期待されます。また、背後の市街地からの湖畔への眺望確保への配慮が求められる地域です。



## (5) 山地ゾーン

山地部の公有林とその周辺の山林ゾーンです。八島ヶ原高層湿原をはじめ、河川沿いの溪谷や山岳群は、市街地を囲み、豊かな自然景観を形成し、また、屋外レクリエーションの場を提供しています。

本町の骨格となる水土環境を守り、優れた自然景観を保全していくことが必要です。



## (6) 里山ゾーン

市街地を囲む民有里山林は、「緑の環境軸」を形成し、市街地や集落を緑で縁どっています。

地形や水系などの自然環境を守り、斜面緑地として里山の保全を図る必要があります。また、市街地や集落地と山裾の境界部での景観調和に努め、人工構造物・建築物の景観誘導を図る必要があります。



## (7) 中山道軸、甲州道中軸

下諏訪宿を基点に東西・南北に伸びる旧街道の軸です。

沿道の歴史的建築物を活かした旧街道の面影と賑わいを感じさせるような魅力を高め、個性あふれる景観づくりを行うことが求められます。



## (8) 骨格交通軸

(国道20号、県道岡谷下諏訪線、町道西大路線)

本町における骨格的な交通の軸です。

幹線道路沿道の町並みや屋外広告物の景観誘導をはじめ、湖岸を意識した景観形成などが求められます。

